

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100087		
法人名	医療法人陽心会		
事業所名	グループホーム 大道が丘		
所在地	那覇市大道94-3		
自己評価作成日	令和5年 12月5日	評価結果市町村受理日	令和6年 4月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4790100087-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和6年 1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本人のもっている力を活かしてできるだけ自分でできることはご自分で行っていただくよう努める。
また共同生活の中自分らしく自由にそして快適に過ごしていただく。
グループホーム大道が丘職員はそのことに努力を惜しまず支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「個人の尊厳を大切に安心、安全に暮らせるよう支援」を基本理念とし、利用者に対する尊敬の気持ちや利用者のストレンクスを大切に支援している。職員は、10項目の事業所方針のもと、特に言葉遣いを意識し、敬語や良い言葉で対応し、大きい声は出さないなど、職員間で話し合い、チームワークを大切にしながら実践に繋げている。支援方針として馴染みの関係を大切にしており、かかりつけ医も同様に馴染みの病院へ利用者全員が継続受診している。食事は3食とも職員が調理して提供している。献立は、ゆし豆腐やチャンプルー等の沖縄料理があり、利用者に「何が食べたいですか」と聞き、鰻や刺身等、また、年中行事に合わせて、中身汁やターウム、ちらし寿司、すき焼き、年越しそば等も提供している。時には、ファーストフード店のメニューを見せて、好きなものを選び、食する機会も設けている。利用者は、もやしのヒゲとり、食器洗い、トレー拭き等の片づけに参加するなど、利用者の好みを取り入れながら、これまでの生活が継続できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年4月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝職員で唱和し本日一日の業務を再確認しています。	「個人の尊厳を大切に安心、安全に暮らせるよう支援」を基本理念とし、利用者に対する尊敬の気持ちや利用者のストレンスを大切に支援している。職員は、10項目の事業所方針のもと、特に言葉遣いを意識し、敬語や良い言葉で対応し、大きい声は出さないなど、職員間で話し合い、チームワークを大切にしながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍による制限中であっても地域の皆さんには地域密着型事業所としての役割の一つとしてコロナ対策や注意喚起のお手紙を配布したり毎朝お声掛けしたりと工夫しています。	コロナ禍ではあるが、事業所として今、できることを工夫して行っている。事業所の周りの掃除やゴミ拾いをしながら近隣住民と会話をしたり、隣の住民からシークワサーやバナナ、新聞などの差し入れがあり交流している。事業所の片隅に自転車やバイクを置かせてほしいとの地域の方の依頼を受けて対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のご高齢の方がお困りなら丁寧に対応し安心していただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の制限中に比べ今年度は市職員や知見者にも参加いただきご意見を活かすことができた。	運営推進会議は、法人内の小規模多機能型ホームと合同開催で2か月に1回定期的に開催し、会議録も作成されている。コロナ禍の影響で、感染予防対策もあり、法人から少人数で行うよう指示がある中、行政職員や知見者、管理者や法人職員のみ参加となっている。家族や地域代表、包括支援センター職員へは資料配布となっており、利用者は参加していない。	令和5年5月8日より、コロナもインフルエンザ同様、5類の位置づけとなっていることから、利用者や家族、地域代表等も含む構成委員全員が運営推進会議に参加できるよう工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の制限により積極性に欠けると思われるが今後は改善し協力しながらサービスに役立てていくよう努力する。	市担当者へ年度初めに運営推進会議の年間予定表の案内を行い、1週間前に電話等で確認しながら情報交換を行っている。この1年間は、行政職員も運営推進会議に参加し、地域との交流等についても会議録に残すようアドバイスしている。また、各種研修等の案内が随時届き、対面研修等に職員が参加できるよう取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 6年 4月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの指針を強く意識し委員会を設置し、身体拘束の無い支援を心がけています。	法人の身体拘束等の理念や方針をもとに、身体拘束管理体制の要綱、身体拘束適正化のための指針、身体拘束に関するマニュアルが作成されている。3か月ごとに第三者の知見者も交えて身体拘束適正化委員会を実施し、会議内容をもとに職員研修も行われ、会議録も作成している。職員にも周知し、身体拘束のない支援に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関してマニュアルや資料にて学習したり毎日のように皆で確認、認識しあい利用者が過ごしやすく生活できるよう虐待防止に努めている。	虐待防止に関する指針やマニュアル、那覇市高齢者虐待防止対応マニュアルをもとに、虐待のない支援を行っている。特に言葉遣いを意識し、方言ではなく、丁寧な言葉かけによる対応を心がけ、気になる場合は、その都度、注意し合うようにしている。年2回、高齢者虐待や権利擁護に関する研修も行われ、不適切なケアにならないよう取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について該当する利用者はいないが研修資料にて理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には納得いただくために時間をかけ丁寧に説明を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にはお電話にて利用者の近況報告を行う際要望やご意見などお話しいただくよう配慮している。	利用者から「お茶碗を洗いたい」、「たまにはおしゃれもしたい」との意向があり、介護計画に反映し対応している。家族より面会をしたいとの要望を受け、10分以内での面会の実施やテレビ電話で対応している。孫の結婚式で見せたいので利用者の動画を撮らせてほしいとの要望への対応も行うなど、意見を言いやすい環境づくりに努め、運営に反映している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 6年 4月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案、要望などできるだけ迅速に対応できるよう努力しています。また月に一回の会議では職員誰でも意見を言うことができます。	毎月の職員会議での意見はもとより、日々の申し送り等においても、職員が提案や意見を述べるができる環境となっている。勤務体制については、通常勤務の夜勤明け9時終了を1時間延長し、10時までにはどうか、夜勤者がトイレ掃除となっているが、日勤者で対応してはどうか、調理用食材の買い物は地域の商店街に注文する等、意見を踏まえ反映している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を責任をもってしっかりと行い職員に周知し前向きな業務ができるよう努めている。	就業規則が整備され、勤務体制や健康診断の実施、職場におけるハラスメントに関する定義等が記載され、指針の作成、及び研修を実施し、職場環境の整備に努めている。法人から資格取得の支援があり、管理者は職員が研修を受講しやすいようシフト調整を行うとともに、職員に対して実践者研修の受講も勧めている。国家資格取得後は、正職員登用を法人へ推薦している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合った資格取得など職員に推奨し外部研修を含めたトレーニングが受け入れやすい環境を維持し職員はスキルアップできている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他事業所管理者と情報交換し職員に周知し検討や会議を行い業務に繋げている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所自体、または他利用者になじんで頂く為新入居の利用者の事は職員全員で時間をかけ情報収集し本人らしく生活できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 6年 4月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の支援にも重点的に努めている。どんなことでも耳を傾け丁寧に相談にお応えできるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずその方の要望など優先し特徴や経歴など鑑みてこれからの生活に役立てるサービスを行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者本人の持っている力をいつまでも活用できるよう一方的に介護支援を行うことなく手を添えて声掛けして共に支えあい生活できるようつとめている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には事業所での状況を知っていただくよう連絡し相談もしています。コロナも落ち着きこれからは以前のように面会など含め関係を深めていけるよう努めます。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域や馴染みの関係など大切に考え続けていけるよう努めています。ご家族とも話し合い変わることのないお付き合いがこれからもできるよう支援する。	馴染みの介護タクシーを利用し、病院受診の往復時、運転手との会話を楽しみにしている利用者やコロナ禍以前は、馴染みの美容室に出かける利用者もいた。事業所近隣から入居している利用者も比較的多いことから、地域の商店街等、馴染みの店から調理材料を仕入れている。法人理事長から馴染みの主治医への受診を継続し、利用者とかかりつけ医との関係が途切れない支援を指示されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 6年 4月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の皆さんが仲良く生活できるよう一人一人の個性を尊重、特徴を全員で分かり合い理解できるよう支援して穏やかな生活が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了しても情報提供できるようご家族や移転先の職員と連携できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人らしさや今までの暮らし方を重視していません。本人の意向を傾聴し支援に活かしています。	利用者の担当を中心に部屋の環境整備や家族との調整を行っており、利用者とは個別に関わりながら思いや意向を吸い上げている。殆どの利用者は自身の思いを発言することができ、職員は日々の生活の中で、利用者と一緒に食堂で会話をしたり、テレビを見たり、新聞を見ながら、調理をしながら、一緒に洗濯物を畳んだりしながら思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は常に利用者の事を把握できるよう基本情報やご家族や本人の会話の中から情報を聴取して把握できるよう務めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の過ごし方や夜間の過ごし方などしっかりと観察し毎日の申し送りで職員全体で把握しています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 6年 4月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の申し送りで毎日の心身の状況を報告、確認しあい月1回は本人、職員にも聞き取りを行ってモニタリングしている。また3か月ごとにカンファレンスを行っている。介護計画作成時は本人、ご家族、必要な関係者から聞き取りを行い、話し合って現状に合った計画を作成するよう努めている。	介護計画は長期目標1年、短期目標を6か月とし、毎月モニタリングをし、3か月毎にカンファレンスを実施している。介護保険更新時の会議参加や認定調査時は家族も参加し、短期目標については電話等で家族と調整している。「おしゃれを楽しみたい」の意向に、「衣類は自分でコーディネートして着る」を短期目標とし、マニキュアや化粧品なども支援している利用者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画作成担当者は介護職員と情報共有し新しい情報を活かし介護計画に役立てている。アセスメントも職員、ケアマネが協働して行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団支援のように特に決められたサービス提供ではなくその時々各利用者に合ったサービスを提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の心身の力をいつまでも保ち自信をつけていけるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医は替えずそのままの関係を保ち事業所と連携し支援しています。	馴染みのかかりつけ医を変更しないことを法人と事業所の方針とし、利用者全員が継続受診している。1名が訪問診療を、全員が訪問看護を利用している。定期や他科受診は家族対応を基本とし、介護タクシーの手配等を支援し、必要時は職員も同行している。受診結果は家族から報告を受け、職員は連絡ノート等で結果や薬の情報等を共有し、職員のグループラインも活用し、早めの周知に努めている。健康診断は家族に確認し、各々の希望で受けられるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と情報共有し毎日の観察の中から気づいたことなど相談し適切な看護、受診ができるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合常に病院側と情報共有、連携しご家族も交え話し合い早急に退院できるよう努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、終末期について話し合っています。本院との連携により対処できるよう取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針は、契約時に利用者や家族に説明している。指針は未整備で、口頭で説明し、「医療連携体制に関する同意書」を取っている。重度化し、医療的ケアが必要になった場合は、家族や主治医等と相談し、法人の病院等と連携して病院への入院等意向に添う支援に繋げている。キーパーソンが県外にいる場合は、管理者が定期的に電話で確認や状況報告等を行っている。	事業所の方針の明確な提示、医療連携体制加算の要件を踏まえる上でも、重度化や終末期に向けた指針を整備して家族等への説明を行い、意向を確認することが望まれる。同意書の様式の見直しにも期待したい。
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急事態に安全に確実に対処できるよう話し合い資料を見直したりまた実践的な訓練も行っている。	職員は応急手当等について同一法人の看護師(2階の事業所勤務)から指導を受け、学習している。心肺蘇生法の研修にも参加し、日中や夜間帯の対応方法を理解している。事故対策マニュアルを整備し、事故・ヒヤリハットについては必要時に訪問診療医や訪問看護師に確認している。事故が発生した場合は、報告書の作成後、2~3日以内に職員会議を開き、再発防止の検討を行い、対策方法の周知に努めている。損害賠償保険に加入している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	防災訓練を年に2回行っている。地域の方々にも参加いただきコロナ禍で少なくなった協力関係を深めていきたい。	昼夜想定年2回の合同避難訓練を実施している。コロナ禍で地域住民の参加は中断している。定期的に防災設備点検を行っている。備蓄は利用者と職員の3日以上を準備し、1階の地域交流室で保管している。レトルト食品等の食料、ペーパー類やゴミ袋等の生活用品、懐中電灯、ガスコンロを準備しているが、備蓄リストは作成していない。感染症発生時のBCPを整備し、災害発生時のBCPIは作成中である。感染症対策委員会は設置しているが、指針の整備や職員への周知、研修等はこれからとしている。備蓄リストの作成に期待したい。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 6年 4月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人の尊厳や虐待など学習し利用者に快適な暮らしができるようプライバシーや言葉遣いに配慮している。	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持って接するよう努め、“さん”づけで声かけをしている。申し送り等では利用者の氏名を出さないようにし、「認知症」という言葉を嫌い、敏感に反応する利用者についても周知して配慮している。食事や睡眠時間は一人ひとりの生活のペースに合わせて支援している。1日1回の着替えを支援し、入浴時等は同性介助を基本として支援している。契約時に、個人情報保護方針や利用目的を説明し、同意書を取っている。個人情報保護方針等は公表している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の衣類やレクや体操など細かいことでも職員が決めるのではなくできるだけ利用者に決めていただくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日頃から利用者によくコミュニケーションをとるように努めている。何気ない会話の中からその方のきもちやほんねを察知しその方の望む暮らしができるよう配慮して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	余裕を持った生活リズムの中ゆとりがあり化粧や好みの服など楽しむ時間を提供している		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りのお手伝いをさせていただいています。職員は利用者と同じ食事をし片付けもできる範囲内で利用者とともにしています。	食事は3食とも職員が調理して提供している。献立は、ゆし豆腐やチャンプルー等の沖縄料理があり、利用者に「何が食べたいですか」と聞いて、鰻や刺身等も提供している。年中行事に合わせて、中身汁やターウム、ちらし寿司、すき焼き、年越しそば等を出し、弁当店やファーストフード店のメニューを見せて、好きなものを選び、食する機会も設けている。利用者は、もやしのヒゲとり、食器洗い、トレー拭き等に参加している。職員は偏食ぎみや小食ぎみの利用者の摂食状況を共有している。コロナ禍は少し離れて座り、職員も同じ食事を一緒に食べている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和6年 4月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者によって配慮しなければいけないことは職員全体で周知し栄養摂取等に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアはしっかりと行っている また訪問歯科との連携により診療まで進めていくことが確保できている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄に関して徹底しているのがトイレにて行うよう職員は声掛けやトイレをお勧めし努力していくこと、それによりおむつの回数を減らしていくよう意識しています。	トイレでの排泄を支援する方針とし、車いすの利用者や103歳の利用者もできるだけトイレへ案内している。排泄チェック表や申し送り等で、その日の体調や排泄状況を把握し、声かけのタイミングを調整している。日中は全員トイレでの排泄を支援し、夜間は希望に添って支援している。トイレまでの歩行、車いすの方は手すりのつかまり立ち等を支援し、自立支援に繋げている。トイレには消臭剤を置く等工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然なお通じができるようお薬ではなく食事等で工夫している。また運動やマッサージなど取り入れて改善に努めています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日などは決まっているが、本人の希望があれば交換や延期などで臨機応変に対応している。	入浴は、週3回の午前中とし、体調や希望により、午後に変更する等、臨機応変に対応している。同性介助を基本とし、異性介助になる場合は説明して承諾を得ている。利用者が気持ちよく入浴できるよう、会話をしながら洗身等の支援をし、入浴後は「きれいになったね」と声かけをしている。入浴拒否はあまりないが、根気よく声かけをする等工夫し、入浴に繋げている。脱衣室は温度調整をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 6年 4月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めていません。本人の生活や希望など優先しています。それによって昼夜逆転などもなく安眠と十分な休息ができています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の疾患等を職員全体で把握できるよう努めている。服薬による事故が無いよう徹底し、少々ミスでも事故につながらないように話し合う場をすぐに設け追及している。	服薬について、職員は薬情報の確認を徹底するようにしている。薬の受け取りや配薬は、利用者担当職員(職員1名につき、利用者2~3名)が行い、朝薬や昼薬、夕薬等を薬箱にセットしている。「服薬マニュアル」や「与薬ルール」に沿って与薬や確認等を行い、誤薬のない安全な服薬支援を継続している。誤薬事故が発生した場合の対応については、「服薬マニュアル」、「事故対策マニュアル」に各々明記されている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や嗜好など職員で考え工夫し新しい喜びなども提供できるよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋上や事業所の周りを散歩したりと狭い行動範囲であったが、コロナやインフルエンザが落ち着いた際にはドライブなど遠出を喜んでもらえるよう努める。	日頃から、敷地周辺の散歩を支援している。利用者は、居室のベランダの花を見ながら外気浴をしたり、屋上の菜園のゴーヤーや市街地を眺める等、気分転換をしている。近隣公園や国際通り、市場等へのドライブ、外食が再開できるよう検討をしている。正月に自宅で一泊した利用者がいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことはほとんどないが今後ご家族と相談し職員と工夫してお金の所持と理解を支援したい。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 6年 4月1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に携帯電話を使っている利用者には充電を行ったり紛失しないよう気を付けている。。また電話したいという利用者には事前にご家族に了解を得て電話をかけて話していただいている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の環境は利用者が快適に過ごせるよう清潔ですべて良好に保てるよう努めている。季節によってしつらいを変え居心地よく過ごせるよう努力している。	共用空間は季節感が味わえるような設えをし、1月は鏡餅や干支のはり絵、帯のタペストリーを飾り、3月はひな人形を飾る等、工夫している。加湿器を設置して温湿度の調整をする等、心地よく過ごせるよう配慮している。廊下には、誕生会や敬老会、クリスマス会等のイベントの写真をその都度掲示している。利用者は毎日リビングで、日課のテレビラジオ体操をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は仲良く居室でおしゃべりしたり散歩したり楽しむことができている。一人の時間を好む利用者はそれなりに職員や他利用者が配慮したりと気遣いが出来ている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人やご家族に、自由に使ってもらっている。また職員でできることは希望があれば行い、喜んでもらえるよう努力している。	各居室には、ベッドやタンス、加湿器等が設置され、利用者は、鏡や写真、化粧品等を持ち込み、自分らしく過ごしやすい部屋作りをしている。マニキュアを置き、誕生会で化粧とマニキュアを支援してもらう利用者もいる。絵画の個展を実施した経験のある利用者は、自作の絵を飾っている。居室から、夜の空や街の風景を眺めることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の持っている力を職員は把握して活かすことができている。		